

Shizuoka Prefecture High School Basketball

静岡県高校バスケットの現在地

プレイバック 静岡県高校バスケット 2016～2017

文=中島 洋己 (県協会広報委員長・県立科学技術高校教諭)

現在、全国における静岡県高校バスケットが『どのようなレベルにあるのか』を理解するために、昨年のウィンターカップから東海国体までの、静岡県勢の東海・全国での戦いを振り返ってみたい。
(平成29年9月現在)

【ウィンターカップ】 平成28年12月23日～ 東京体育館

男子代表の**浜松学院**は初戦・**松江西** (島根) に快勝、続く2回戦は大会ナンバーワン留学生の呼び声高い**ドウドウ・ゲイ**を擁する**八王子学園八王子** (東京)。史上稀に見るシーソーゲームの展開に加え、ゲイと**田中旭**の火花散るマッチアップに会場もヒートアップ。最後は**石川晴道**、**ダシルバヒサシ**の得点で逃げ切り優勝候補の一角を破る大金星を挙げた。3回戦は新興勢力・今大会台風の目となった**北陸学院** (石川)。この世代のスーパースター・**大倉颯太**の爆発的な得点力に苦しみ7点差で惜敗したが、県代表としての重責は十分に果たしたと言える。女子代表・**浜松開誠館**は1回戦、**中津北** (大分) 相手にウィンター初勝利。上位進出に向けて最大の関門となった**広島総体ベスト8・就実** (岡山) との2回戦、エース・**塩見あずさ**やU-17日本代表の**那須愛加**など多彩な戦力を誇る相手に、主将・**陽本麻優**を中心に堅い守りで得意のロースコアゲームに持ち込み逆転勝利。3回戦は**湯沢翔北** (秋田) の精練された攻撃力に中盤苦戦する場面があったが終わってみれば圧勝。準々決勝では**広島総体3位、高原春季**という絶対的エースを擁する**大阪薫英女学院** (大阪) と対戦、最後は力尽きたが28年ぶりの出場での全国3勝は十分賞賛に値する。男女とも県代表のチームが大会全体を大いに盛り上げた。

【東海新人大会】 平成29年2月11、12日 県立ゆめドームうえの、HOS名張アリーナ

三重県開催となったこの大会、男子は**飛龍**、**浜松学院**、**浜松開誠館**、女子**浜松開誠館**、**駿河総合**、**常葉学園**が出場した。浜松開誠館は初のアベック出場を果たした。男子は浜松開誠館が**美濃加茂** (岐阜)、浜松学院は**桜丘** (愛知) に初戦で敗れたが、飛龍は**安城学園** (愛知)、**四日市工業** (三重) と強豪を連破、決勝に進み**中部大第一** (愛知) と対戦、互いに譲らない攻防を見せ、司令塔・**伊東潤司**が3P8本を含む30得点を挙げたが、相手のWエース・**星野京介**、**坂本聖芽**を抑えられず24年ぶりの優勝を逃した。女子は3チームとも初戦突破、中でも浜松開誠館と駿河総合の健闘は目を見張るものがあり、浜松開誠館は初戦・**名経大高蔵** (愛知) に快勝し、準決勝でウィンター覇者・**桜花学園** (愛知) と対戦。スピードで相手を圧倒しようと怒涛の攻めを展開し、一時は2点差まで迫り横綱を土俵際まで追い詰めた。6点差で敗れたがエース・**石田悠月**がチームの7割にあたる42得点を挙げたことは特筆される。駿河総合も**高山西** (岐阜)、そして三重王者・**いなべ総合学園**を立て続けに破り、県新人決勝と同一カードとなった県勢同士の3位決定戦では浜松開誠館と熾烈な戦いを再現、

一進一退の攻防を繰り返し惜しくも最後は開誠館に寄り切られたが、県王者と互角以上の戦いを繰り広げた。

【東海高校総体】 平成29年6月17、18日 AGF 鈴鹿体育館、四日市市中央緑地体育館
男子は飛龍、浜松学院、12年連続の出場となった藤枝明誠、女子は浜松開誠館、東海大静岡翔洋、市立沼津が出場した。男子は藤枝明誠、浜松学院がそれぞれ安城学園、桜丘の愛知勢に敗れ、飛龍の奮闘に期待が寄せられた。初戦の富田（岐阜）を危なげなく一蹴し、準決勝・インハイ出場を決めている桜丘と対戦。実力伯仲の接戦となり、セネガル人留学生のジャイニャ・クルは攻略したが、エース・富永啓生に29得点を許し惜しくも敗れた。3位決定戦では安城学園に完勝、松下裕汰も21得点を記録し復調の兆しを見せた。女子は東海大会初出場、初のインハイ出場を決めた東海大翔洋が初の大舞台に緊張したのか岐阜3位の高山西に敗れる波乱が起きた。市立沼津は2回戦で敗退したが、四日市四郷（三重）、桜花学園という強豪相手に遠藤真帆が47得点、杉浦雅が33得点。ウィンターに向け明るい光が見えてきた。岐阜女子、桜花学園という全国のワン・ツーが揃う東海ブロックで両巨頭の牙城に迫る浜松開誠館は準決勝で再度桜花学園と対戦。東海新人では思わぬ苦戦を強いられた桜花学園が二度と同じ徹を踏むまいと常時優位な試合展開をし、得点源・山本麻衣がドライブと長距離砲で26得点。開誠館も一時は7点差まで詰め寄ったが逆転までにはいたらなかった。続く3位決定戦、四日市商業（三重）戦では石田をベンチに下げたの苦しい戦いとなったが、鈴木侑がドライブ、3Pと八面六臂の大活躍で見事東海3位の座を死守した。

【全国高校総体】 平成29年7月28日～ 福島県福島市 県営あずま総合体育館 他
男子は2年ぶりの飛龍、2年連続の浜松学院、女子は同じく2年連続の浜松開誠館、そして初出場となる東海大静岡翔洋が出場した。強豪ひしめく「死のブロック」に入った飛龍だが、初戦の高松商業（香川）戦で100点ゲームを展開し攻撃型バスケットを十分に見せつけて挑んだ2回戦、相手は圧倒的な力で関東総体を制した市立船橋（千葉）。保泉遼と野崎由之という爆発的な得点力を誇る選手に粘り強いディフェンスで得点を最小限に抑え、ロースコアゲームに持ち込んで見事勝利を収めた。続く3回戦では東海総体で敗れた桜丘への雪辱戦。強豪・北陸を破り意気揚々と戦いを挑んでくる相手に強めのプレッシャーディフェンスを展開、インサイドの得点源・クルにボールを触らせない展開に持ち込む。関屋心の活躍もあり23年ぶりのベスト8進出を決めた。初の4強進出を賭けた大一番、相手はウィンター3連覇の経験を持つ明成（宮城）。怪物・八村阿蓮に得点させまいと必死のディフェンスを施すが身長差は如何ともしがたく、残り4分で2点差まで追い詰めるのが精一杯で準決勝進出は果たせなかったが、「飛龍旋風」を吹き起こした功績は大きい。浜松学院は全国常連の東海大諏訪（長野）相手に終盤5点差まで迫ったがあと一步届かず無念の初戦敗退となった。女子は初戦・和歌山信愛（和歌山）に快勝した浜松開誠館が東京の第3代表・明星学園にまさかの苦戦、パレイのりこのインサイドプレーや途中で仕掛けられたゾーンディフェンスの攻略に苦慮し得点を思うように伸ばせず、皮肉にも開誠館得意のロースコアゲームに持ち込まれまさかの2回戦敗退。東海大翔洋は市立前橋（群馬）相手に終始リードを奪われる苦しい戦いが続き、そのまま押し切られたが一時は4点差まで詰め寄るなど今後の戦いに

希望を持たせる敗戦となった。ちなみにこの大会も昨年に続き女子決勝は桜花学園ー岐阜女子の東海対決となり、言うまでもないが改めて東海女子のレベルの高さが証明された。

【東海国体】 平成29年8月19日、20日 浜松アリーナ

10月の**愛媛国体**の出場権を賭けた東海国体が地元・浜松アリーナで開催された。昨年は東海ブロックから2枠の国体出場権が与えられたが、今年はずか1枠を賭けた熾烈な戦いとなった。

少年男子は飛龍、浜松学院、藤枝明誠、浜松開誠館、沼津中央の選手で編成されたまさに「オール静岡」で臨んだ。少年男子は初戦・**岐阜県**と対戦、石川が第1Qだけで3P5本という離れ業をやったのけ快勝、決勝戦は永遠のライバル・**愛知県**との戦いとなった。愛知は中部大第一と桜丘の連合軍編成で坂本、富永、クル、**張本正登**などまさに全国トップレベルの布陣。試合は一瞬たりとも気が抜けない白熱した戦いとなり、富永6本、石川6本を筆頭に両軍合わせて24本の3Pが飛び交うまさに空中戦。石川から**サンブー・アンドレ**へのアリアップも決まり、観客も両軍の全国トップレベルの戦いに息を飲んだ。一進一退の攻防が続く中、サンブーがファウルトラブルで一旦ベンチに退いたあとも愛知の得点源・クルの高さに対し**奥村大翔**が体を張った捨て身のプレーでゴール下を守り、コートに戻ったサンブーが残り2分で高さだけに頼らない献身的なポストプレーを見せついに逆転、愛媛国体への出場を決めた。試合終了後も会場は興奮冷めやらない状態が続くまさに歴史に残る「死闘」であった。**少年女子**は桜花学園主体の**愛知県**と初戦で対戦。国体に出るためには、愛知、岐阜を連破しなければならないというタフな条件の下、静岡はスタートダッシュに成功し愛知のスコアラー・山本に対してはフェイスカードを用いて抑えにかかり前半をリードして折り返すも、愛知はダブルチームを狙う静岡の隙をつきフリーの選手を見つけパスを回してゴール下で得点を重ねる巧みな攻撃を見せ逆転、さらに突き放しにかかる。静岡も**長嶋アンソニー真弥**が思い切りのよいミドルシュートなどで一人気を吐き17得点するが、愛知の落ち着いたパスワークとゴール下を制した高さに圧倒され惜敗、今回も分厚すぎる東海の壁を破ることは出来なかった。

少年男子は愛媛国体では初戦をクリアすれば準決勝で、昨年敗れた**福岡県**との再戦が予想される。インハイ優勝・**福岡大大濠**とウィンター優勝・**福岡第一**の連合軍、まさに最強の強敵ではあるが東海国体決勝で見せた怒涛のバスケットを展開すれば勝機は十分見出せるだけに、48年ぶりの優勝を目指し、一丸となつての奮闘を期待したい。